

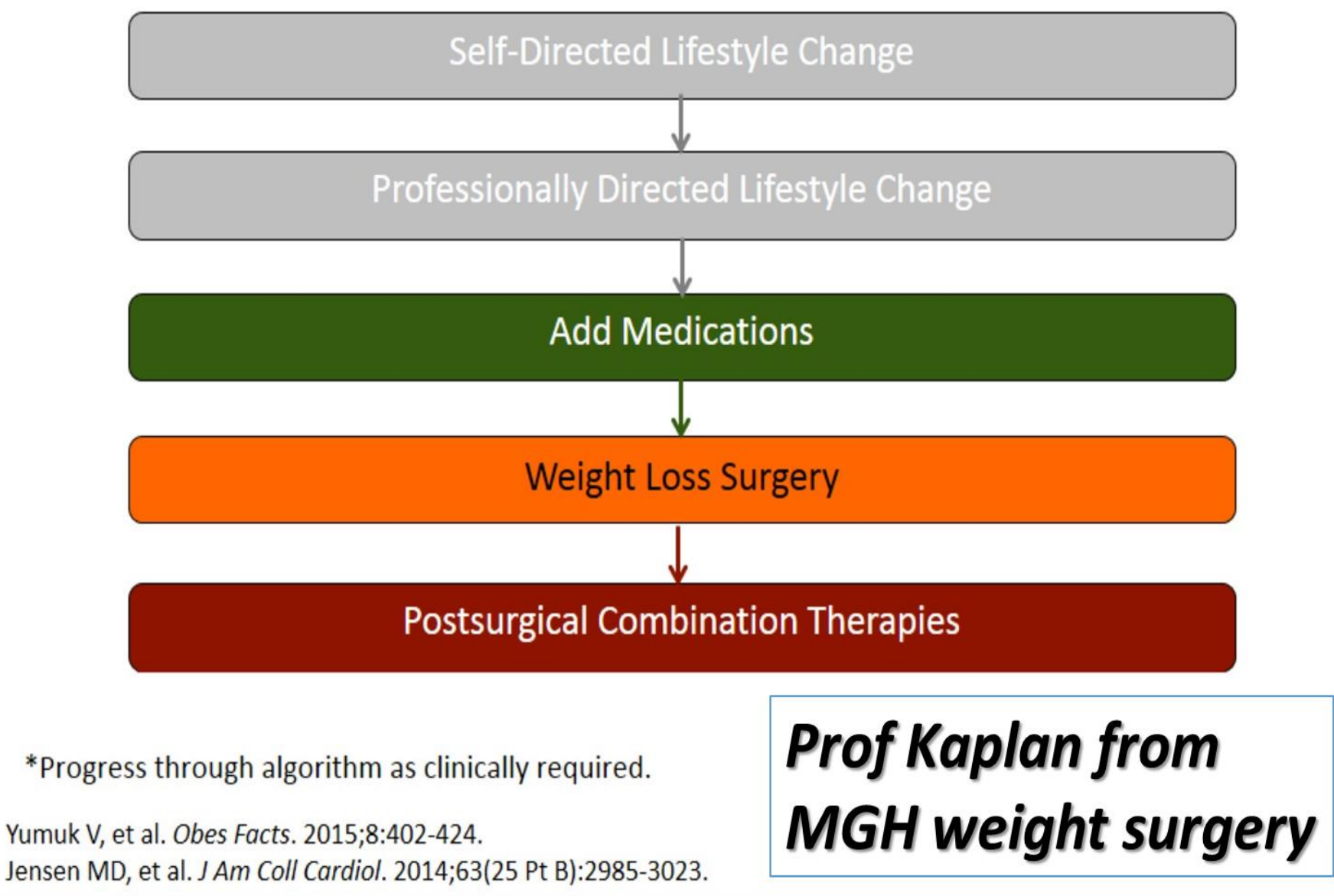
減量手術後にテストステロン補充を実施した2症例

高橋綾乃、谷総藍子、戸田遥子、田中真希、林優衣、堀江美穂、須見遼子、竹入沙知、早川麻理子、前田和久
医療法人ロングウッド 北千里 前田クリニック

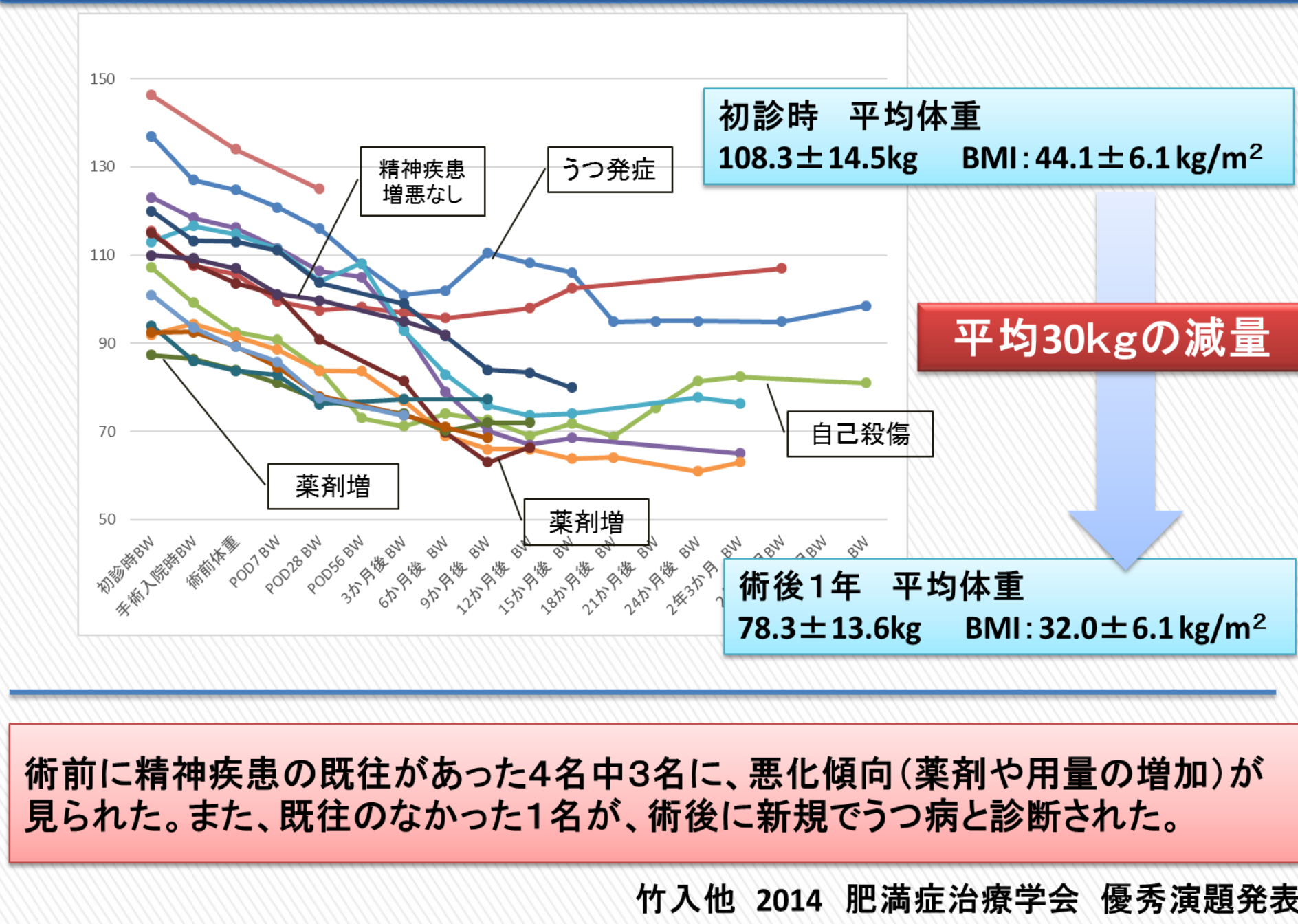
背景

Weight loss surgeryの件数増加に伴い、Postsurgical combination therapyの重要性が注目されている。
当院ではLSG減量手術を受けた15例の長期フォローを行っているが、術後完全に体重リバウンドを来し再バイパス術が必要となる症例や精神症状の悪化する症例、低血糖を繰り返す症例など介入困難な臨床例も経験し、集学的加療の必要性を認識してきた。

Overall Strategy for the Treatment of Obesity (cont)*



肥満手術のデメリット？ 体重減少と精神疾患について



肥満手術後の精神疾患の悪化について

精神疾患の既往・傾向がある患者さんは、減量手術に伴う食事制限や嘔気等により**ストレスが増大**し、精神疾患の病態が悪化することが懸念される。

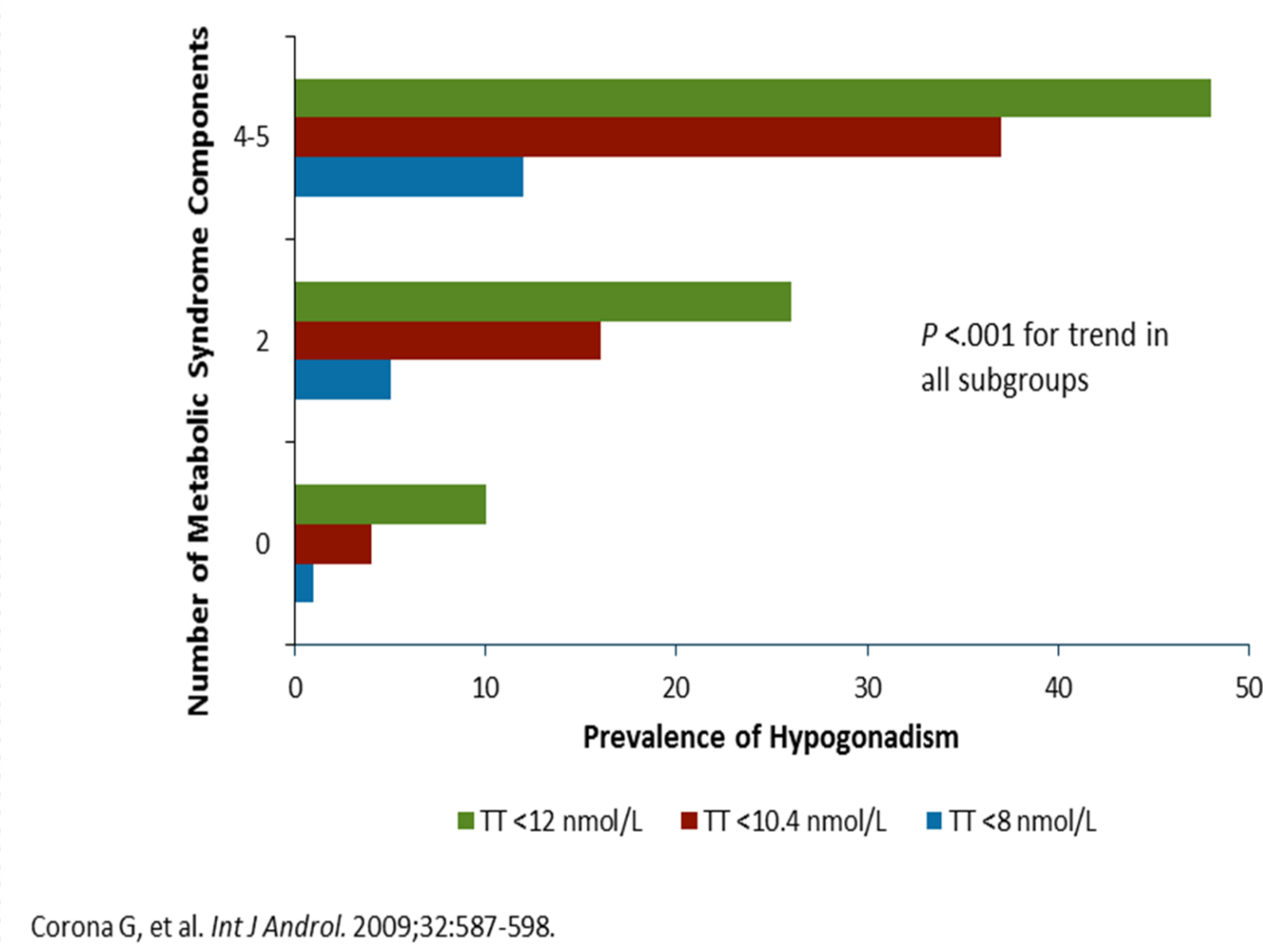
↓

何らかの精神疾患の結果として過食や肥満が現れていることを考慮すると、結果としての肥満を取り除くだけでは問題は解決せず、外科、内科、精神科の主治医、および看護師、臨床心理士、**管理栄養士**などからなる医療チームによる、長期的で注意深いフォローを前提に手術に臨む必要

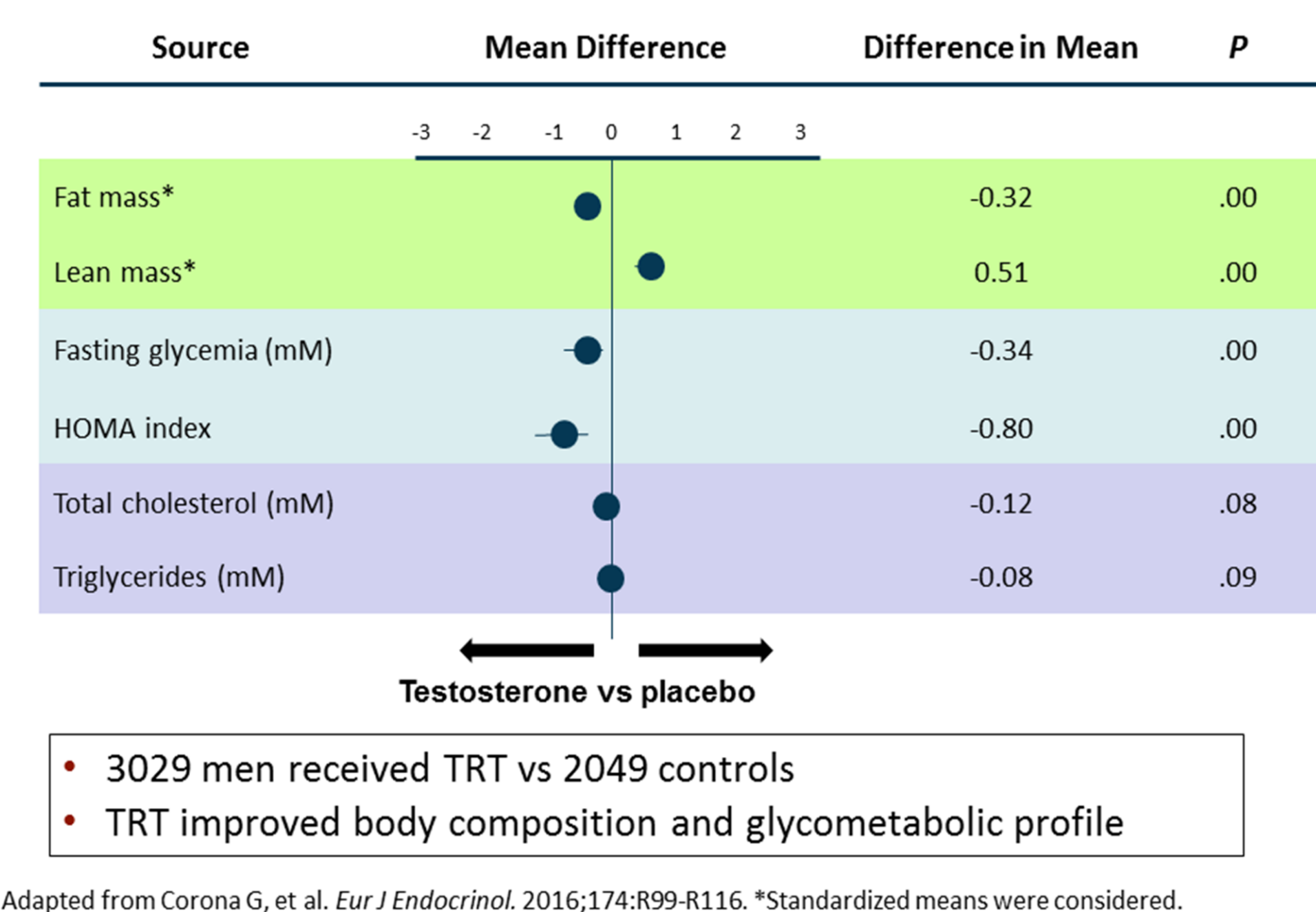


一方、当院外来では非肥満者を含むLOH(性腺機能低下症候群)と診断された低テストステロン患者24名に対してテストステロン治療を実施してきたが、最近低ゴナドトロピン肥満患者に対するテストステロン補充の減量効果についても報告されている。

Testosterone Levels Decrease as Metabolic Syndrome Components Rise



Meta-Analysis of 59 RCTs of TRT



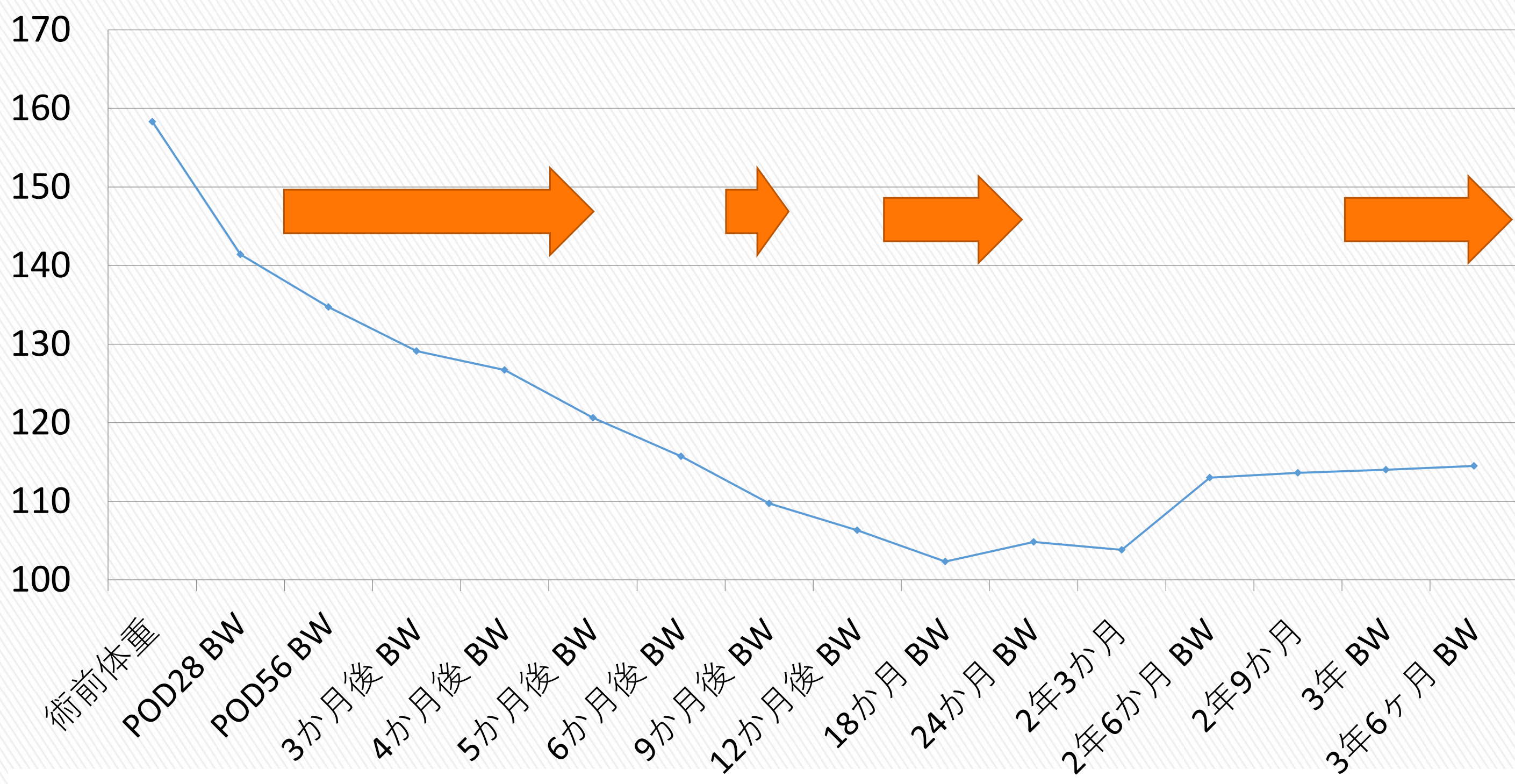
テストステロン

テストステロンは精巣で合成される代表的男性ホルモンであり、二次性徴の発現、精子形成、骨格筋におけるタンパク同化作用の促進等を示す。また、ストレス処理を促し精神の安定を保つことやドーパミンの産生、集中力、記憶力の向上にも関わる重要なホルモンである。

結果

術後のテストステロン補充と体重変化

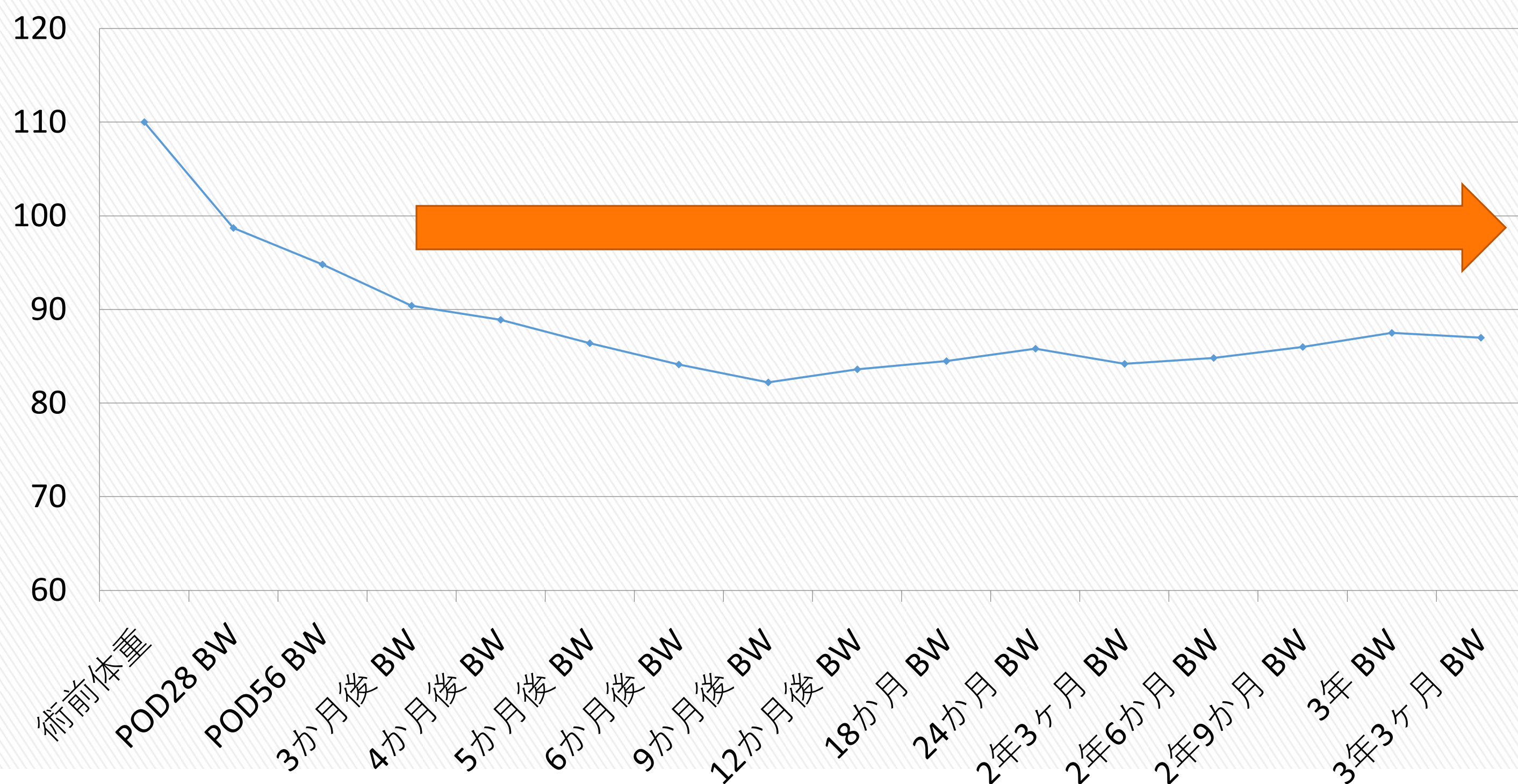
【症例1】250mgテストノンデポー筋注を3か月毎に実施



38才男性 米国人教授 手術後の急激な減量に伴う余剰皮膚伸展を予防するために経皮的なテストステロン(マカダミアナッツアロマオイル含)塗布より開始し、徐々にトレーニングによる筋力増強相乗効果を実感。ニキビなどの副作用もあったが、間欠的な投与を繰り返し良好な減量効果を得た。来春結婚予定。

テストステロン補充期間 :

【症例2】250mgテストノンデポー筋注を2～4週毎に実施



42才男性 バス運転手 手術時に抗うつ剤の服用が多数あったが、テストステロン投与によりうつ症状が改善(聞き取りより)。テストステロンの上昇に伴い、術後に一時期見られた仕事への勤務意欲低下の回復、IIEF(International Index of Erectile Function)より重症EDから中等～軽症(5点→13点)への改善、抗うつ剤の減量に成功。

結論・考察

今回、LSG後にテストステロン補充を実施し、減量ならびに良好な臨床経過を観察しえた2例を経験した。

我が国の高度肥満患者に多いとされるうつ症状や、減量外科手術後の精神状態悪化に低テストステロンが如何に関与するか不明な点が多い。一方、海外の文献等からテストステロンの肥満治療における有用性が多数報告され、今後は我が国でも二次性肥満の鑑別からPostsurgical combination therapyまで肥満診療全般の取り組みへの多数例での検討が期待される。